

二十歳の夢 未来に届け！



1月13日、成人式が行われ、本市では689人の方が大人の仲間入りをしました。今の二十歳の皆さんはどんなことを考え、どんな目標を持っているのでしょうか。今月号では、「二十歳の夢 未来に届け！」と題し、新成人4人のインタビューをお届けします。



かけひ まりえ さん (新白河)

春からは念願の 保育士として働きます。

「子どもたちが安心して寄ってき
てくれる保育士になりたいです」と
話すのは寛真里依さん。
寛さんは、保育士の母から仕事の
話を聞くうちに、自分も子どもたち
と関わる仕事をしたいと思い、郡山
女子大学短期大学部幼児教育学科に
進学しました。
短大では、1年生と2年生のとき
同じ保育園で実習をしました。最初
の年は人見知りして近寄って来なか
った子どもたちが、2年生の実習の
ときに、子どもたちの方から寄って
きてくれました。
「安心感を与えていたから、子ど
もたちが寄って来てくれたんだよ」

という先生の言葉を聞いて、自分の
気持ち子どもたちに届いていたこ
とがとても嬉しく感じられました。
4月から念願の白河保育園で働く
ことが決まった寛さん。実習のとき
とは違い、責任の重さに不安でいっ
ぱいです。しかし、応援してくれた
家族のためにも、前向きに頑張っ
ていこうと決めました。

「就職が決まったとき、家族がす
ごく喜んでくれました。わがママを
言って迷惑を掛けていましたが、い
つも応援してくれました。そんな家
族に感謝しています。みんなの期待
に応え、一人前の保育士になること
が家族への恩返しになると思います」
一昨年の大地震のときは、祖母と
二人でいたので、他の家族の声を聞
いたときは安心し、家族の大切さを
改めて感じました。また、地震の影
響で入学が1か月遅れたり、教室が
使えなくなったり、不便な生活と不
安を抱える日々を経験し、何もない
平和な日常がいかに幸せなことか身
を持って感じました。
現在は、アルバイトをしながら残
り少ない学生生活を送っています。
接客業のアルバイトでは、笑顔でい
ること、礼儀、積極性が身に付きま
した。
何事にも全力で取り組み、経験し
たことを自らの糧にしていく寛さん。
その目はとても輝いていました。



はがまさのり さん (表郷三森)

20歳をきっかけに 新しいことにチャレンジしたい。

「新しいことにチャレンジしてい
きたい」と話す芳賀優典さん。
今までは、率先してみんなをまと
めることはあまりなかった芳賀さん
でしたが、20歳をきっかけに、新た
なことに挑戦してみようと思い、成
人式の実行委員長に立候補しました。
成人式で述べた謝辞は、とても緊張
しましたが、成人として責任を果た
すことができ、達成感でいっぱいに
なりました。今回をきっかけに、い
ろいろなことにチャレンジしてい
きたいという気持ちが強くなりました。
印刷業の工場で働いている芳賀さ
ん。仕事は夜勤もあり大変ですが、
休日、ドライブに出掛けたり、友人
と遊んだりすることが良いリフレッ
シユになっています。
「将来は自分の家族を持って、大
好きな白河で暮らしていきたい」と
笑顔で話す芳賀さん。明るく充実し
た生活を送る未来の芳賀さんの姿が
目に浮かびました。



おのたっや さん (大信増見)

自分の周りにいる人たちを 大切にしながら生きていきたい。

「家族や友人、自分の周りにいる
人たちを大切にしながら生きてい
たい」と話す小野達也さん。
研磨の仕事をしている小野さんの
目標は、誰にも負けない磨きの技術
を身に付けることです。そのため、
先輩の真似をしたり、どうやったら
うまくできるか自分で考えてみたり
、真剣に仕事に取り組んでいます。
小野さんには、外では仕事を一生
懸命こなし、家では子どもの面倒を
見たり、家事や農作業を手伝ったり
、仕事と家庭をうまく両立させてい
る尊敬できる兄がいます。また、辛
いときにはお互い支え合うことがで
きる親友がいます。家族や友人が身
近にすることが心の支えになり、自
分にとってはなくてはならない、か
げがえのない存在であることを成人
を機に改めて感じています。

「将来は「兄のようにになりたい」と
話す小野さんからは、家族や友人を
想う気持ちが伝わってきました。



すずきかずき さん (東形見)

救急救命士を目指し、 一歩ずつ進んでいます。

「救急救命士になってより多くの
人の命を救いたいです」と話す鈴木
一樹さん。
幼稚園の頃、病気の祖母を助ける
ため、将来は医療関係に携わる仕事
に就きたいと思いました。
そして、救急車に乗って一番最初
に人を助ける救急救命士を目指すこ
とに決めました。救急救命士になる
ためには、消防士としての経験、さ
らには研修を受け、国家資格に合格
する必要があります。今はその夢に
向かって消防士として毎日懸命に働
いています。
人の命を救う仕事には、辛いこと
もたくさんあります。
「救急車で駆け付け、助けられな
かったとき、人の命の重さをひしひ
しと感じます。しかし、より多くの
人の命を救うため、立ち止まらず前
に進んでいかなければなりません」
と話す鈴木さんからは、強い意志が
感じられました。